

monopedia × XMLDB



株式会社ネットプライスインキュベーション

今井 剛 go-imai@netprice.co.jp

目次

- モノペディアとは？
- モノペディアシステム構成
- 開発段階で思ったこと
- なぜDB2 9？
- XML列と通常列の使い分け
- XML列使用例
- 最後に・・・

社名 **株式会社ネットプライス** (英語名: netprice, Ltd.)

本店所在地 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー17階

設立 1999年11月25日

役員数 323名 (グループ合計・2006年9月末日現在)
(グループ役員18名 正社員167名 契約・アルバイト等131名)

資本金 23億24百万円 (2006年9月末日現在)

代表者 代表取締役社長CEO 佐藤 輝英

主なグループ会社 株式会社デファクトスタンダード 株式会社もしも
株式会社メディアン 株式会社エムシープラス
株式会社ネットプライスファイナンス 株式会社ネットプライスインキュベーション

主な株主 株式会社サイバーエージェント
佐藤 輝英
ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド2号
株式会社電通 (2006年9月末日現在 株主数 3,907名)

モノペディアとは？

モノペディア
(<http://monopedia.net>) は
世の中のさまざまな
商品のレビューを集約する
目的で作られたサイトです。
商品レビューは誰でも閲覧する
ことができ、どんな商品でも
レビュー投稿することができる
CGMメディアです。

(CGM:コンシューマー-ジェネレーティッドメディア)

会員登録は無料です！
皆さんもぜひご登録を！



モノペディアサーバ構成

Internet

Web server

RedHat LinuxES4
ZendCore for IBM
(apache2 php5)



Contents & Storage server

RedHat LinuxES4

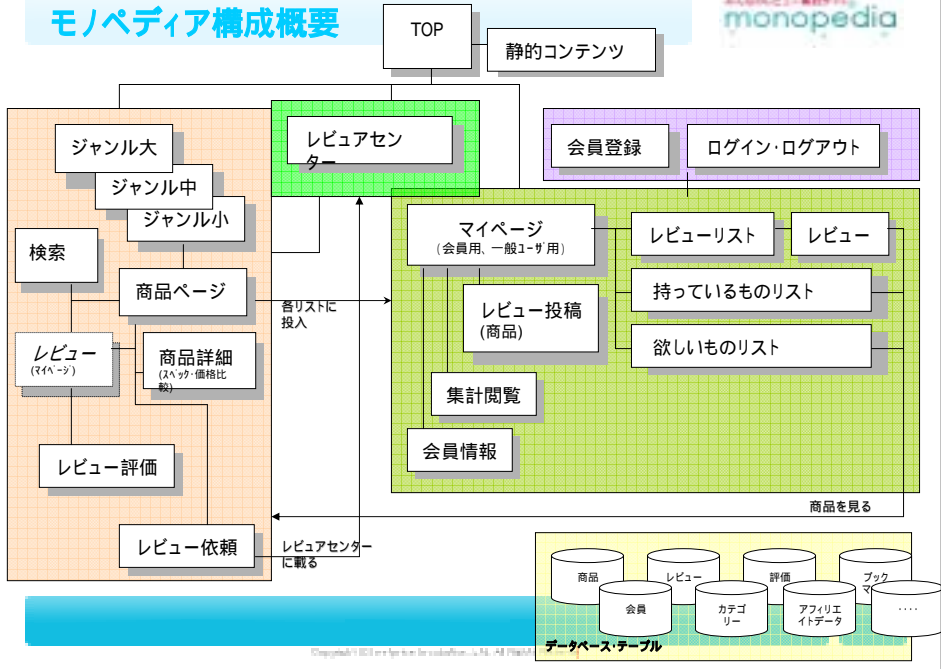


DB server

RedHatLinuxAS4(64Bit)
DB2@9 Express
pureXML™ Future
NetSearchExtender



モノペディア構成概要



OS: RedHat Linux ES,AS(64bit)

DB: IBM DB2 9 Express

WebServer: Apache2(@Zend Core for IBM)



Language: php5(@Zend Core for IBM)

Freamwork: Ethna(@GREE)



Editor,IDE: IBM DeveloperWorkbench、text editor



サイト開発を行う上で、大まかな画面設計はしましたが、

- ・企画段階、開発途中で要件が変わっていく、、、
- ・今後も形がどんどん変わっていくはず、、、

ため、詳細設計までは行いませんでした

そのため、開発は非常に困難を極めました・・・

ただ、要件定義、詳細設計してしまうことがビジネスの進みを止めてしまうかもしれない、とも思っていました。

なぜ？

たとえば、

テーブルスキーマが決定してしまっていると
制約が制約以上に制限となり変更追加などが非常にきびしい
(入力項目を1つ追加するだけでも「困難」または「不可能」)

リリース後も成長し続けるCGMメディアであれば

- ・柔軟に形を変えていける土台
- ・今日思いついたこと、ユーザの意見を
すぐに反映できるスピード

実現するには
身動きが取りやすい開発スタイル

そうはわかっているけども
実際には現行のRDB上で開発してました。
(そのため、要件が変わるたびにDropTable CreateTableを
幾度となく繰り返してました・・・)

正直やっぱり限界・・

リリース3週間前(社内リリース2週間前)に
DB2 9の採用を(勝手に)決定!!
(開発担当は自分ひとりだったからこんな決断が出来たのかもしれませんが)

なぜDB2 9?

さまざまなXMLDB製品はありますが、
その中でDB2 9を選んだ理由は。。。。

DB2 v8がネットプライスギャザリング販売システム
において全面的に採用されていた(<http://www.netprice.co.jp>)

個人的にXMLに興味があった(WEBサービス花盛りです)

DB2 XML Extenderに興味があった
(使ってみたかったのですが業務多忙に付き・・・)

DB2 Viperが気になっていた
(ネーミングに惚れた?!)

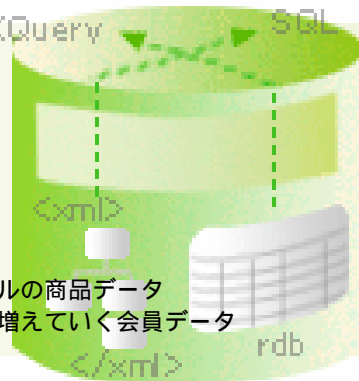
と、ほとんど興味本位です・・・

XML列と通常列の使い分け

全てXMLで保存するべき?

逆に開発や運用が大変になります XQuery SQL

- ・マスターデータは**通常列**
 - ・ Excelで作成したデータそのままDB投入
 - ・ 確立しているデータなど
- ・ 項目数が変化していくデータは**XML列**
 - ・ スペック項目が異なるさまざまなジャンルの商品データ
 - ・ パーミッション・セグメント項目設定が増えていく会員データなど



これら混在したデータ形式でも、
XqueryやSQL/XMLで柔軟に扱えることができます

・考え方

リレーションは避けたい

よくある

member、member_address、
member_mailadd、member_etc・・・

とテーブルが細かく分かれていると
データ投入も取得も正直面倒・・・

データはまとめておいた方が後々楽

XML列の使用例 会員登録画面

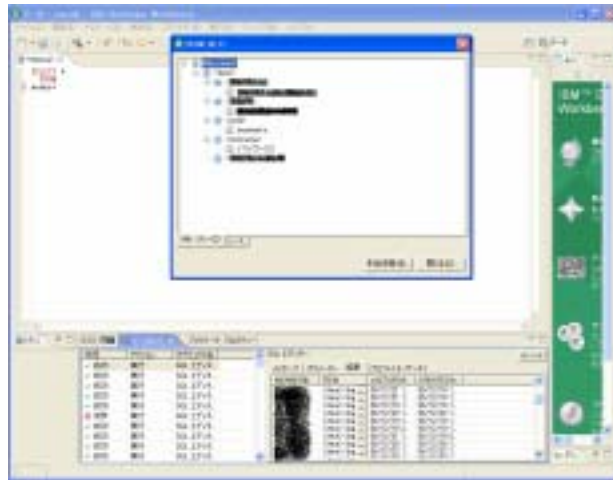
たとえば
会員登録情報

会員登録時は、
軽めに
必要最小限の入力
にどめています

A screenshot of a web browser displaying the membership registration page of Monopedia. The page title is "会員登録画面". The form contains several input fields for user information, including name, email, and password. There are also checkboxes for terms and conditions. The form is designed to be user-friendly and minimize the amount of data input required.

XML列の使用例 会員登録後のXML列

そのため、
会員登録時には
XML列には
コレだけしか
入っていません



15

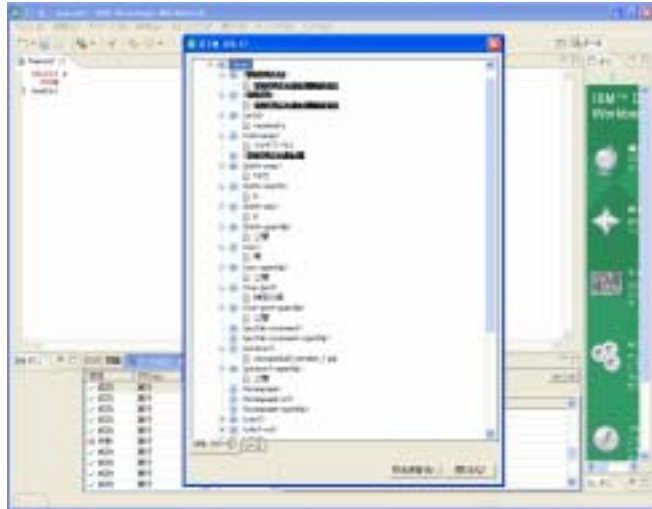
XML列の使用例 プロフィール編集画面

登録が完了したら
詳細情報をいれて
もらっています。
(入力は任意です)



16

プロフィール登録を行うとXML列にはさまざまなタグが追加されます



・考え方

出来るだけデータは入れておきたい

データ投入時、保存項目列が無いからデータ投入しないのはモットイナイ
だったら適当なタグを追加してDBに投入しておけばのちのち使えるハズ！

・考え方

カッコよさ

テーブルスキーマを見ると

etc1,etc2、、、という列がある・・・美しくない

XMLDBなら

必要になったときにXMLデータにタグ追加するだけでOK

ほかにも・・・！

DB2 9でよかったこと

・思い通りにXMLDBを扱えた

DB2 v8などを使っていれば ほとんど抵抗無くDB2 9が利用可能でした
(周辺ツールもほぼそのまま使えます)

+ IBM DB2 Developer Workbench は強い見方です！

・NetSearchExtenderでXML内も高速全文検索

同じデータベース上にカンタンな設定をするだけで
高速全文検索が可能になりました

手順抜粋・・・

NSEのインストール

db2text start

db2text create index インデックス名 for text on テーブル名(XML列名)

db2text update index インデックス名 for text

SELECT * from テーブル名 where contains(XML列名, '(section(“/XMLタグ/ XMLタグ”)”キーワード”

ある程度の構想だけで進める
イマドキのweb2.0的なサービスのシステム開発には
ハイブリッドDBは非常にベストな選択

ご清聴ありがとうございました！